「ヴァージニア・リール」探索の記

櫻 井 雅 人

1. まぽろしのヴァージニア・リール

民間に伝承されてきたアメリカのダンス曲の中には名称としては広く知られている のに実態がよくわからないというものがいくつかあり、そのような例の一つに「ヴァ ージニア・リール」があげられる。以下に見るようにさまざまな文献で言及されてい るし,英米の大型および中型の英語辞書はもちろんのこと中型の学習用英和辞書にい たるまでたいていの一般英語辞書に見出しがあることを見ても⑴,このダンスと曲の 知名度の高さについてはほとんど疑いがないようである。ところが、もう一方の「わ からなさ」については、あるエッセイ⁽²⁾の中で、ヘンリー・フォード楽団(Henry Ford's Old Time Dance Orchestra) のレコードにこの曲が含まれているが、その筆 者は聞いたことがないと言うし、映画『風と共に去りぬ』(1939)の中で踊られている ように南北戦争当時よく知られていたダンス音楽らしいのに、この曲を吹き込んだレ コードが他に見当たらない、と報告されている。すでに廃れてしまった曲ならばとも かくも,現に多くの人たちが踊ってきたダンスであるのに,それに伴う曲のほうはレ コードでは聞くことができない、ということになる。あとで検討するように、レコー ドが他にまったく存在しないわけではないが、アメリカ民俗音楽のかなり詳しいディ スコグラフィー⁽³⁾には一つも載っていないし,少なくとも CD 盤が容易に見つからな いことは確かであろう。また、この名称の楽譜もほとんどない、あるいは知られてい ない,と言ってよかろう⁽⁴⁾。楽譜・レコード・CD の売上げや放送の回数などを基準 にして「ポピュラー音楽」のポピュラリティーを決めることは一般的であろうが(5), それにしても「有名」であるのにレコードや楽譜がほとんどないというこの落差はい ったいいかなる理由によるものであろうか。そして、そもそも「ヴァージニア・リー ル」とはいかなる曲なのであろうか。不十分ながらもいろいろな資料を参照していく うちに,いくつかの点が明らかになってきたので,ここで整理してまとめてみること

4 言語文化 Vol. 37

にした。

初期のアメリカのダンス曲は研究がほとんど進んでいないことは周知のことで、その主たる理由は「ほとんどが出版されなかったばかりか記譜もされなかった」(6) ためとされている。民間のダンスに使用された音楽が必ずしも民俗音楽とは限らないが、確かに、アメリカ民俗音楽の書誌を見ると、歌謡に比べて文献はかなり少ない(7)。初期ダンス曲のみならず、一般に民俗学者たちは音楽を扱う能力に欠けており、民謡の音楽面や器楽曲を事実上無視してきた、とも言われる(8)。ダンス曲の場合には、音楽面での専門知識が必要になるばかりではなく、曲の変化や変容が把握しにくく、題名(題名がない場合もある)と曲およびダンスと曲との間に一対一の対応が見られないことも追跡を困難にしている。同一の名称のダンスであっても曲が異なったり、反対に同一の曲が異なるダンスに使われることは珍しくない。また異なる曲に同一の名称が与えられたり、同一の曲に複数の曲名が使われることもある。さらには、ダンスとダンス名の関係も常に一定しているとは限らない。つまり、ダンス・ダンス名・曲・曲名の4者の関係はそれぞれに流動的であって、一口に「ヴァージニア・リール」と言ってもそれぞれのレベルで考える必要があろう。

2. サー・ロジャー・ド・カヴァリー

いくつかの記述によると、ダンスとしての「ヴァージニア・リール」は、イングランドの「サー・ロジャー・ド・カヴァリー(Sir Roger de Coverley)」(あるいは「ロジャー・ド・カヴァリー」)なるカントリー・ダンスと同じものとされており⁽⁹⁾、スコットランドでは「ヘイメイカーズ(The Haymakers)」と呼んでいた⁽¹⁰⁾。ただし、この場合のカントリー・ダンスとは、プレイフォードのダンス曲集⁽¹¹⁾に見られるようなものであり、もとは田舎のフォーク・ダンスであったものをブルジョワ階級が変容を加えて「洗練」されたダンスとして導入し、17世紀から19世紀にかけて西ョーロッパの上流階級で流行したものである⁽¹²⁾。これはフォーク・ダンスが「しだいに発展して組合職人の踊り、町人の踊り」となり、「さらに発展して貴族の踊りと宮廷舞踊に変わっていくが、ここまでくると、フォーク・ダンスの性格も形もまったく変わっていく」⁽¹³⁾という流れにのったものであって、すでに田舎の踊りではないから「田舎踊,田舎舞踊」⁽¹⁵⁾でもない。

サー・ロジャーはロングウェイズの一つ(longways for as many as will)であり、 初めに何組かの男女が向き合って男女別に2列に並び、次にヘッド(上手のことでト ップともいう)の男性とフット(下手のことでボトムともいう)の女性が中央に出て手を取り合って踊る。一連の踊りをしたあとで、最後にそのカップルは手でトンネルを作り他の全員がその下をくぐり、カップルの男性はフットに残される。当初2番目にいた男性が今度はヘッドに位置して、同様な動作を繰り返す。このようにして全員の男女がそれぞれ相手を変えながら踊るのである(16)。1820年に描かれた「サー・ロジャー・ド・カヴァリー」と題された絵を見ると、上流階級の舞踏会で2人の男女が右手と右手を取り合っている場面であり、背後には7人ほどの女性が1列になって並んでいる(17)。2人はカップル・ダンスのように抱き合って踊る姿ではない。なお、同じくロングウェイズであってもダンスによって違いがある。セシル・シャープの『カントリー・ダンス・ブック』(18)には17種のロングウェイズが収録されているが、まったく同じものはない。2列になるものが多いが、中には「ダーガソン(Dargason or Sedany)」のように男女に別れて全体が1列に並ぶものもある。

サー・ロジャーには固有の曲がある。1685年のプレイフォードの『ディヴィジョ ン・ヴァイオリン (Division Violin)』(この年代は O. E. D. の初出例になっている) および 1696 年以降の『ダンシング・マスター』に収録された 9/8 拍子のもので,ウィ リアム・チャペルが『昔の民衆音楽』(1859) の中で「いまだに民間に流布しているダ ンス曲」(19) であると言うところによると,このダンスとともに 19 世紀の後半までは 知られていた。19 世紀のイングランドにおいては,他のダンス (ワルツなどのカップ ル・ダンス)の流行におされてカントリー・ダンスは下火になったが,中期以降も残 っていたのはサー・ロジャーのみであり(20),1910年代に踊ったとわざわざ報告され るところからすると(21),舞踏会で踊られたのはせいぜい 20 世紀初頭までと推測され る。曲のほうは主として楽譜によって伝えられたと思われ,おそらくプレイフォード 版またはそれを編曲したものである(22)。同名の歌謡になったものや派生曲や関連曲 (たとえば「アーサー・オブラッドリー」) はあるとしても(23),基本的には器楽のダン ス曲であり(24), それほど大きく変容をとげることはなかったであろう。ダンスのほう はヴァージニア・リールとしてアメリカで生き残るのであるが,そこでの曲は「サ -・ロジャー」ではなくて、すでに植民地時代におそらくはアメリカの生まれの他の 曲に取って代わられていったものと思われる(25)。 なお,スコットランドではダンスの ヘイメイカーズの曲として「麦芽業者は月曜日にやって来る(The Mautman Comes on Monday)」なる題名で知られる(26), という。

3. ヴァージニア・リールというダンス

ダンスは植民地時代から盛んにおこなわれており,ダンスを知っていることは社交 のための必須の条件と考えられていた(27)。問題のアメリカにおけるヴァージニア・ リールであるが,ニュー・イングランド版とされているものは,6組から8組のカッ プルがサー・ロジャーと同様のフォーメーションをとったあとで,ヘッドの女性とフ ットの男性,およびヘッドの男性とフットの女性が次々と踊る。最後にヘッドのカッ プルは他の全員が作るアーチ(向かい合った相手と両手で作るトンネル)の下をくぐ ってフットに位置する。すべてのカップルがこのように踊って初めのポジションに戻 るまで続けられる(28)。これは,織物の作業を模したもので,杼(shuttle)の動きおよ び横糸 (woof) と縦糸 (warp) とが交差して織り上がる様子を示していると言われ る(29)。他の記述でも,人数に差 (4組から8組のカップル) はあるが,ほぼ同様のダン スを指していると考えられる(30)。映画『風と共に去りぬ』で見られるヴァージニア・ リールは、短いシーンであるので全体像はわからないが、舞踏会の締めくくり(31)では なくて冒頭に踊られたという点(また,コールがない点)を除いては、だいたいこれ らの記述に合致すると言えよう。2列に並び、参加者の数も不定である点なども、サ -・ロジャーと同じであって,そのヴァリエーションと考えられる。日本にフォー ク・ダンスとして伝えられているヴァージニア・リールも,これらと部分的には若干 の相違があるものの、基本的には同様なものである(32)。

サー・ロジャーとは違ってヴァージニア・リールは 20 世紀になっても踊り続けられた。民俗学者のウィリアム・ウェルズ・ニューエルが『アメリカの子供たちのゲームと歌』(初版 1883 年) の中の解説(ただし、楽譜等は付されていない)で「このダンスは、ここであえて記述しようとはしていないが、疑いもなく読者諸氏にはよく知られているものである」(33) と言っているところをみると、説明不要な程度には有名であったようだ。また「アメリカの古いロングウェイズ・ダンスの中で現在までもっとも持続してきたものである」(34) とも言われる。その知名度は 19 世紀後半までには確立していたのであって、それは近代的な辞書編纂が開始されるようになった時期とも重なることから、押しなべて辞書の見出し語として採用されていったものであろう。ただし、名声にもかかわらずダンスそのものが全米であまねく伝承されてきたとは言えない。スクウェア・ダンスの指導者のロイド・ショーは、「素晴らしいロングウェイズはアメリカのこの地方(西部)では単なる名称であるか、いくつかの学校で復活

(revival) されたものにすぎない。(中略) ヴァージニア・リールは生き残っているではないか、と言われるだろう。そうではない。田舎の人々 (country folk) が踊っているのは見たことがない。学校や社交団体の間で唯一知られたロングウェイズとして奇妙にも生き残ってきたのだ。私が奇妙だと言うのは、他の多くのダンスと同じくらい見事で楽しいものとは思えないからである。また私と一緒にダンスをしている若者達も踊ることを拒んでいる。彼らは飽き飽きしているのだ。幾度となくデモンストレーションで踊ったり教えたりするように求められてきたからである。」(35) と言う。このような状況の下では民衆的なダンス曲として「ヴァージニア・リール」が演奏されることはそれほど多くはなかったかもしれないし、学校教材用ならばともかくも、一般向けの「ヴァージニア・リール」のレコードは作ってもそれほど需要があったとも思えない(また、民俗的なダンス音楽は生演奏が主体であるのでレコードの必要性もそれほどは高くはない)。民俗音楽として記録が少ないことはすでに述べたが、またアメリカのポピュラー音楽」の範疇には入らないとされているようである(36)。

しかし、アメリカでロングウェイズがすたれてしまったわけではない。1930 年代にはリヴァイヴァルの動きが起こって、現在でもとくにニュー・イングランド地方で踊られている。「ヴァージニア・リール」は含まれていないが、それらのダンス音楽を収録した CD も出版されている⁽³⁷⁾。ただ、それらは観賞用の音楽ではなく、実際の演奏による実用のダンス音楽を記録したものであり、本来レコード録音を目的としたものではなかったし多くはレコードによって伝えられたものでもなかった、ということであろう。なお、ロングウェイズはしばしばニュー・イングランドと結び付けられている⁽³⁸⁾。ヴァージニア・リールの場合も同様で、他にも多くのコントラを報告している先述のリンスコットの記述は『古いニュー・イングランドの民謡集』の中でなされたものであったし、エマーソンははっきりと「ニュー・イングランドでヴァージニア・リールとして知られるようになったもの」⁽³⁹⁾という言い方をしている。

ヴァージニア・リールは時たまスクウェア・ダンスとしても紹介されている⁽⁴⁰⁾。ただし、アイラ・フォード『アメリカの伝承音楽』に掲載されている「ヴァージニア・リール」もスクウェア・ダンス音楽のカテゴリーに入れてあるが、巻末の注記とコールを見ると、6 組のカップルで男女が向き合う、というもので基本的にはロングウェイズのパターンをとっている⁽⁴¹⁾。スクウェア・ダンスはさまざまなダンスの要素を引き継いで形成されたアメリカ的なダンスであり⁽⁴²⁾、起源はあきらかではないものの、カドリーユ⁽⁴³⁾、コティョン⁽⁴⁴⁾、ラニング・セット⁽⁴⁵⁾などから大きな影響を受けて

いるものと思われる。また,広義のスクウェア・ダンスに含めることがあるのは,ロングウェイズを変形して4人を1組としたものとみなすことができるからかもしれないし,ダンスがおこなわれるコンテクスト,曲目などが共通していることによるものであろう。さらには,アメリカのヴァージニア・リールにはスクウェア・ダンスと同様に「コーラー(caller)」が加わることがある(46)。ロイド・ショーも『カウボーイ・ダンス』の中で,多くのショート・セットでヴァージニア・リールを踊る時には「ダンスにコールを付けることが九分どおり必要になる」(47)と言う。これらのヴァージニア・リールは,フィギュアそのものはサー・ロジャーを引き継ぐものであるが,コンテクストやパフォーマンスからすると上流階級の「カントリー・ダンス」というよりは,いくつかの辞書で示されたように「フォーク・ダンス」(48)に近い。ビル・マローンが述べているように,「おそらく少数の人にしか知られていないことであろうが,ヴァージニア・リールとかスクウェア・ダンスのようにカントリー・フォーク・ダンスと考えられているものは,起源からすると上流階級のダンスであり,ともかくもそこから抜け出て田舎の貧しい人々の間に広まって,彼らはそれを自分たちのものとした」(49)のである。

ダンスという名ではないが、ヴァージニア・リールはプレイ・パーティーあるいはシンギング・ゲームともなった。これは宗教上の理由などでダンスが禁じられていた共同社会で「ダンス」ではなくて「ゲーム」ないしは「パーティー」として「踊られた」ものである。「多くの親は子供たちがいかなるタイプのダンスにも参加することを禁じた。しかし、音楽に合わせたゲームは容認された。コミュニティーによっては、ヴァージニア・リールは許された。実際はイングランドのカントリー・ダンスであったが、活気があり素朴で昔から続いているものであって、フォーク・ゲームとしての資格を得ていたのだった。」「50」という理由であったが、「フィギュアはヴァージニア・リールから由来するものであり、あまりにダンスに似すぎているとして眉をひそめる向きもあった」「51」ともいう。一見してヴァージニア・リールに似ていることは明らかで、「リール」と説明されることもあるし「52」、「判断力のない(uncritical)目にとっては、ヴァージニア・リールと見間違えられることをしている」「53」と受け取られたようだ。プレイ・パーティーやシンギング・ゲームに使われた曲については後述する。

名称はヴァージニア・リールであっても、相当に異なったダンスになったものもある。たとえば、ラフカディオ・ハーンは、1876年のシンシナティで見た黒人たちの踊りについて、「ソーセージ通りのダンス小屋やバックタウンの"ダンス場"でヴァージニア・リールと呼ばれる古い音楽に合わせて夜ごと踊られるのは、昔の奴隷時代の踊

り」であって,黒人たちの小屋での踊りは「曲が古いヴァージニア・リールに変わり, それにつれて踊りにも変化があって、甚だグロテスクな様相を呈するようになっ た |(54) と報告している。これは明らかに上記のロングウェイズではない。この報告に ついて、スターンズ夫妻は「音楽がリズミックになるにつれて、踊りはカドリーユか らヴァージニア・リールに、そして"流行のニグロ曲"に合わせたアフロ・アメリカ ンのジューバ(Juba)に進行する」(55)と説明している。また、南北戦争の少し前に南 部諸州を旅行したチャールズ・ランマンも「とうもろこしの皮むき会 (cornhusking)」と呼ばれる黒人奴隷の収穫祭で踊りを見た。秋の夜に開かれる祝祭で,佳 境に入ったところでフィドルやバンジョーそしてさまざまな手作り楽器でにぎやかに 演奏しながら、活気づいてほとんど半狂乱な状態で跳んだりはねたりして総勢 100 名 もの人たちが「有名なヴァージニア・リール」を明け方に至るまで踊り続けたのであ った(56)。これらは、フィギュアはヴァージニア・リールと認められるものの、かなり アフリカ化されたものであった。しかし,黒人の踊りがすべてこのようなものではな かった。1853年にアラバマ州モントゴメリーで2人のイングランド女性が見たもの は、「60名ほどの黒人たちが全員で2丁のヴァイオリンと1丁のバンジョーの演奏す る音楽に合わせて踊っていた。1人の黒人は椅子の上に立って、ヴァージニア・リー ルでとるべきフィギュアを大声でコールしていた (57) というもので、基本的にはヨー ロッパ系アメリカンのスクウェア・ダンスと同種であろう。なお,黒人の間ではリー ルという言葉はかなり広義に用いられており,「社交の音楽の総称 | としてある種のブ ルースも含んでいる(58)という。西インド諸島のトバゴの例であって、これらと直接 の関連はないようであるが、19世紀に駐屯していたスコットランドの連隊から受け継 いだと言われるその名も "Reel"という曲は(59). どこがリール的であるのかわからな いくらいに変容している。このような状況であるから、ヴァージニア・リールと呼ば れる踊りが当初の形式からかなり逸脱していても不思議はない。

ネイティヴ・アメリカンにもヴァージニア・リールがある⁽⁶⁰⁾。これは左右の足が 微妙にずれるという独特のステップではあるものの,ロングウェイズであって,ョー ロッパ系のスクウェア・ダンスから取り入れられた他の多くのダンスと同じく,比較 的変容が少ないものと思われる⁽⁶¹⁾。

4. ヴァージニア・リールに使われた曲

さて、ヴァージニア・リールに使われた曲および「ヴァージニア・リール」と呼ば

れる曲を順次に検討してみよう。エロイーズ・ハバード・リンスコットによると,植 民地時代のニュー・イングランドで「サー・ロジャー・ド・カヴァリー」なる曲は使 われなくなり、ダンスのヴァージニア・リールは「アイルランドの洗濯女(The Irish Washerwoman)」,「白い帽章(The White Cockade)」,「ヤンキー・ドゥードゥル (Yankee Doodle)」の3曲に取って代わられた(62), という。「アイルランドの洗濯女」 は現在でも典型的なダブル・ジグ(63)として有名な曲であり、その楽譜の初出はスコ ットランドのニール・ガウ (Niel Gow) の曲集 (1792) で,旋律そのものは「スコッ チ・バグパイプ・メロディー (Scotch Bagpipe Melody)」と関係があり、それはトマ ス・レイヴンズクロフトの『パメリア』(1609) に収録の"Oft have I ridden upon my gray nag" および『イングリッシュ・ダンシング・マスター』(1651) の"Dargason, or Sedany"に溯ることができる⁽⁶⁴⁾。アイリッシュ系の演奏もあり,そのように記述 されることもあるが(65),特定のナショナリティーとは結び付かないほど広く演奏され る。「白い帽章」はロバート・バーンズの歌として詩集にも収録されているもので、一 般にはスコットランドの曲と受け取られており(66). スコットランドのフィドル曲集(67) にもある。「ヤンキー・ドゥードゥル」がヴァージニア・リールのダンス曲として採 用される頻度は不明であるが、曲そのものは VOA 放送のテーマ曲に使われているほ ど「準国歌」的なものであるから、説明は割愛する(68)。

曲目においても、映画『風と共に去りぬ』のダンス・シーンは、リンスコットの説明にほぼ一致する。このことからすると、映画の場面はヴァージニア州が舞台であるが、ニュー・イングランドのダンスを参考にして演出・撮影されたという可能性もある(また、曲目からしてもアイリッシュとは言えない)。当初の脚本では台詞やト書に「ヴァージニア・リール」の名はなく「ディクシー」をリールとして使うことになっていたが⁽⁶⁹⁾、映画撮影版では、黒人の楽団長が「ヴァージニー・リールを始めますので、パートナーをお選びください(Choose yo' partners fo' de Verginny reel!)」と言ってから、楽団は「アイルランドの洗濯女」と「白い帽章」をメドレーで演奏する⁽⁷⁰⁾。もちろんここでの「ヴァージニア・リール」とはダンス名であって曲名ではない。ただし、使用された曲の名は印刷台本には記載されておらず、その一方では、最新の決定版と言われるサウンド・トラック盤でも後者の曲名がいまだに「ギャリー・オーウェン」と誤って記載されている⁽⁷¹⁾。

『アメリカ英語大辞典』および『アメリカニズム辞典』によると、もっとも古い「ヴァージニア・リール」の引用例(1817年)は"One of the favourite Virginia reels is, 'Fire in the Mountains, run, boys, run.' (Paulding, *Lett. from South* I. 151)"と

されている(72)。ここでのヴァージニア・リールとは,「ヴァージニア・リールという ダンスに演奏される曲」のことである。この曲は「ファイア・オン・ザ・マウンテン ズ(Fire on the Mountains)」というシンギング・ゲームとしても英米で知られてお り⁽⁷³⁾,歌詞においても「ジム・アロング・ジョージー」(Jim Along, Josie)⁽⁷⁴⁾とも関 係するところがあり、いずれもヴァージニア・リール(ないしは類似のステップ)で 踊られた。現在のタイトルは"Fire on the Mountain"とするものが多く,これは主 に器楽曲として知られており、ブルーグラス系のレパートリーとなっている(75)。注目 すべきなのは、上記辞書の記録からすると「ヴァージニア・リールというダンスに演 奏される曲」という意味での「ヴァージニア・リール」は初めから複数形であった。 以後どのくらいの数の曲が使われたのかは不明であるが、「南北戦争以前に出版され た19世紀南部のかなりの内容があるフィドル曲集では現存する唯一のもの」(76)とさ れているジョージ・ノーフ編の『ヴァージニア・リール集 (Virginia Reels)』(1839) には 35 曲が収録されている(77)。この中に "Fire in [on] the Mountain(s)" は含まれ ていないが、現在でも演奏される曲としては他に"Killie Krankie"[別名"Money Musk"](78), "Speed the Plough", "Forked Deer", "Two Sisiters" [別名 "Boys of Bluehill", "Sally Ann Johnson"], "Billy in the Low Grounds"(79), "Old Virginia" [別 名 "Flowers of Edingburgh"], "Midnight Serenade" [別名 "Buffalo Gals", "Round Town Girls"]⁽⁸⁰⁾, それに "Natchez on the Hill"⁽⁸¹⁾ などがある。しかし、ここにも 「ヴァージニア・リール」と題した曲はない。以上のような状況から判断すると, 非存 在の証明は不可能であるとしても,ダンスのヴァージニア・リールにはもともと「ヴ ァージニア・リール」という固有の曲はなかったのであって,このダンスには他の既 存の曲が流用されたと考えるのは自然なことと思われる。

以上のような推測をもとにして考えるならば、前述のリンスコットによるダンスのヴァージニア・リールの説明に「ヴァージニア・リール」なる曲名がまったく登場しなかったことが理解できよう。しかし、それにもかかわらず「ヴァージニア・リール」と呼ばれる曲は現存するのであって、前に言及したフォード楽団の曲とかアイラ・フォード『アメリカの伝承音楽』に掲載の曲、および注(3)のレコード・CDに収録の曲などがその具体例である、という主張がなされるかもしれない。確かに、それらはすべて明確に「ヴァージニア・リール」と呼ばれており、他の名称は付されていない。そこで、これらの中で聞いたり見たりすることができた3点のSP盤と1点の楽譜をここで検討してみよう。まず、興味深いことに、これらは等しく「ヴァージニア・リール」と呼ばれてはいるが、旋律の点ではすべて異なる曲である。これにはいったい

どのような意味があるのであろうか。

ヘンリー・フォードのオールド・タイム・ダンス・オーケストラの演奏する「ヴァージニア・リール」は「ヴァージニア・リール〜ミス・マクラウド〜トム・ブラウンズ・ボディー」のメドレーである(82)。メドレー全体のタイトルはダンスを意味し、収録曲の一つは曲名を意味すると思われるが、普通の語法からすると「ヴァージニア・リール・メドレー」となるところである。さて、このコール付きの「ヴァージニア・リール」であるが、一般には「ラリー・オギャフ(Larry O'Gaff)] として知られている曲であり、もとは19世紀の「ステージ・アイリッシュ・ソング」である(83)。日本のフォーク・ダンスで「ヴァージニア・リール」とされているのもこの曲である(84)。また、その一方では、これは必ずしもヴァージニア・リール専用の曲ではなく、現在のニューハンプシャー州でポートランド・ファンシー(Portland Fancy)というダンスの曲としても使われている(85)。他の曲目である「ミス・マクラウド」については後述する。「トム・ブラウンズ・ボディー」は"John Brown's Body"(あるいは Julia Ward Howe 作詞の"The Battle Hymn of the Republic")と同じである。

アイルランド系のジョン・マクダーモット(フィドル)の演奏する「ヴァージニア・リール・メドレー」(1926)は「ミス・マクラウドのリール~トランプ,トランプ、トランプ・ヴァージニア・リール~ザ・ガール・アイ・レフト・ビハインド・ミー」であり,ここにも「ヴァージニア・リール」なる曲が含まれている⁽⁸⁶⁾。結論を先に言うと,これは「フェアリー・リール(Fairy Reel)」または「フェアリー・ダンス(Fairy Dance)」として知られているものである。1802年にスコットランドのニール・ガウが作曲したものとされており,アイルランドでは特別なダンスとともに演奏される曲であり⁽⁸⁷⁾,メドレーの1曲として演奏されることが多い⁽⁸⁸⁾。他の曲はそれぞれ有名なものである⁽⁸⁹⁾。

もう一つ、ナショナル・バーン・ダンス・オーケストラの「ザ・ヴァージニア・リール」を聞いてみよう⁽⁹⁰⁾。これは、「ディクシー」の作者のダン・エメット (Dan Emmett) が作った(歌詞のみというのが通説である)ミンストレル・ソングの「オールド・ダン・タッカー (Old Dan Tucker)」である。「多分、当時はいかなるメロディーよりも多く歌われた」⁽⁹¹⁾曲であり、他にも「オールド・ジップ・クーン」などミンストレル・ソング由来の曲がヴァージニア・リールに使われているので、転用は珍しいことではない。さらに、『アメリカの伝承音楽』の「ヴァージニア・リール」であるが、これは同書の別の箇所にも掲載してある「レザー・ブリッチズ(Leather Britches、綴りは Leather Breeches とも)」と同じ曲である⁽⁹²⁾。もとはスコットランド

(またはスコティッシュ・アイリッシュ) の「ロード・マクドナルド (Lord Mac-Donald's Reel)」から由来する⁽⁹³⁾ もので、録音も多い⁽⁹⁴⁾。以上のごとく、少なくとも調べて確認することができた「ヴァージニア・リール」はいずれもオリジナルな曲ではなく、他の曲から流用したものであることが判明した。

この他にも、よく知られている「ミス・マクラウドのリール」(95) は、マクダーモットの「ヴァージニア・リール・メドレー」やフォード楽団の「ヴァージニア・リール」の中にも含まれているもので、これ自体が「ヴァージニア・リール」とも呼ばれたとされる(95)。別名である「ジョーおじさん、悪魔に会ったことがあるかい」とか「ホップ・ハイ・レイディーズ」などは歌としての題から由来しており、別の曲として扱われることもある(97)。アイルランド系にも親しまれてきたので(98)、アイルランドの曲とみなされることもあるが、アイルランドでも「スコティッシュ・リール」という認識はいまだにあるようだ(99)。出所はスコットランドの"Mrs. MacLeod [McLeodとも] of Raasay"とされており(100)、現在でもこの題名で演奏される(101)。なお、「ホップ・ハイ・レイディーズ」にはミンストレルの影響がある(102)と言われ、「ミス・マクラウドのリール」は実際にミンストレル・ソングの「オール・ダッド (Ole Dad)」の前奏・後奏にも使われたし(103)、ミンストレル・スタイルの演奏もある(104)。ただ、この曲が「ヴァージニア・リール」と呼ばれることが多いとは思えない。それは「ミス・マクラウド」がすでにかなり通りのよい名前として確立していたためかもしれない。

なお、「アメリカにヴァージニア・リール Virginia r. と呼ばれる民俗舞踊があるが、これは古いイングランドの郷土舞踊〈Sir Roger de Coverley〉と同じもので、ヴァージニア地方ではその旋律は〈My Aunt Margery〉として知られており、この踊りがヴァージニア・リールである」(105)という記述があるが、これまで検討してきたこととかなりの矛盾点がある。ヴァージニア・リールには数多くの旋律が利用されてきたので、「その旋律」とは「ヴァージニア・リール」ではありえないし、「サー・ロジャー」のことを指すのだとすると、その曲は植民地時代に使われなくなっていた。また「知られて」いる旋律であるのなら、なぜこれまで参照した文献のいずれにも言及されていないのであろうか(106)。ウィリアム・チャペルは、未確認としながらも、ヴァージニアではサー・ロジャーの踊りは「マイ・アーント・マージョリー」と呼ばれるという報告を紹介しているが(107)、それは旋律の名称ではない。「ヴァージニア地方では」ダンスそのものはサー・ロジャーないしはヴァージニア・リールとして有名であったし、もしもあえてヴァージニア・リールという明白なダンスの名称を避けていたので

あれば、これはシンギング・ゲームであった可能性がある(また、このタイトル自体 もシンギング・ゲーム的である)。もちろん、以上は推測である。

最後に、シンギング・ゲームまたはプレイ・パーティーに使われたいくつかの曲を 見ておこう。ダンスやフィドルを嫌う共同社会で少なくとも表向きはプレイ・パーテ ィーとして発展し,またシンギング・ゲームとしては子供たちが主な伝承者になって きたという点で、大きな違いがある。「ジム・アロング・ジョージー」や「ホップ・ハ イ・レディーズ」のように共通するレパートリーとなることもあるが、それでもフィ ドルによる器楽曲ではなくて伴奏のない歌であり、伝承の場も異なっている。ニュー エルが『アメリカの子供たちのゲームと歌』(108)で、歌詞や楽譜などの具体例を示さず に紹介していたヴァージニア・リールとは,おそらくシンギング・ゲームであろう。 実際に,ヴァンス・ランドルフが同じ「ゲーム」と認めてニューエルの説明を引用し ているのは,プレイ・パーティー・ソングの「ウィーヴィリー・ウィート(Weevily Wheat)」の注記(109) においてである。ヴァージニア・リールに似ていることはあち こちで指摘されているが(110), "Oh, Charlie he's a fine young man" などの歌詞を含 むものが多く、アラン・ローマックスは「スコットランドの "Over the Water to Charlie"のアメリカ版」(**11)と言う。同様のゲームの「おお、ベリンダ (O Belinda)」 も、イギリス(グラスゴー版)ではリングのフォーメーションをとるものがあるが、 一般的にはヴァージニア・リールもどきのゲームである(*12)。「ボストンへ行こう (Going to Boston)」はジーン・リッチーによるダルシマー弾き語り(113)で知られてい る歌であるが, もとはヴァージニア・リール風のプレイ・パーティーの歌である(114)。 また,シンギング・ゲームとなったのは必ずしもアメリカのみにおいてではなく,イ ギリスの "A-Hunting We Will Go" (曲は版によって違いがあるが、アメリカの "The Farmer in the Dell"と同じ旋律のものもある)もサー・ロジャー・ド・カヴ ァリーのようなフィギュアをとる(115)。これらはいずれもヴァージニア・リールとは 呼ばれておらず、それぞれにさまざまな異なった歌が伴っている。

5. 結語

これまで見てきたように、ダンスのヴァージニア・リールはイギリスのサー・ロジャー・ド・カヴァリーから由来するもので、ヴァリエーションはあるものの、シンギング・ゲーム (さまざまな名称) にもなっている。ダンスとしてはヴァージニア・リールと呼ぶのが一般的である。曲は当初からいろいろなものが使われていたようで、

固有の曲はなく、出所もあちこちからで、特定もできない。ヴァージニア・リールに使われても、多くは別の本来の名称を維持しているが、中には「ヴァージニア・リール」と呼ばれるようになったものもある。それゆえ同じく「ヴァージニア・リール」であってもそれぞれが別の曲である。また、曲名としての「ヴァージニア・リール」は少数派であり、レコードでもこのタイトルでの録音は少ない。

注

- 1. 初級用の学習用英語辞書である *The Newbury House Dictionary of American English* (Heinle & Heinle, 1996) に見出しはないが、"American folk dancers like to do the Virginia reel." という用例が含まれている (s.v. reel)。
- 2. 中村とうよう「レコードの裏おもて」(『レコード・コレクターズ』誌, vol. 17, no. 8, Aug. 1998, p. 112). この記事については佐々木健一氏のご教示による。それのみならず, 以下本文と注(82, 86, 90 など)で言及するフォード楽団および関連する他のいくつかの SP 盤レコードはすべて佐々木氏所蔵のものであり, それらの録音テープを提供していただいた。これらは本稿執筆において欠くべからざる資料となったものであり, ご厚意に対してあらかじめここでお礼を申し上げる。
- 3. Norm Cohen, Traditional Anglo-American Folk Music: An Annotated Discography of Published Recordings (Garland, 1994). このディスコグラフィーは LP と CD のみが 対象であり、SP盤そのものは LP化・CD化されたもの以外は除かれている。なお、本 稿執筆の際には聞くことができなかったが,LP 盤としては American Folk Dance (by Eva Decker and Harley Luse) (Imperial FD-102); American Square Dance Group: Running Set and Longways Dances (Margot Mayo, Leader) (Decca DL 8012); Guy Lombardo and His Royal Canadians, Square Dances (Decca DL 5277) ₹ "Virginia Reel" が収録されている (Ray M. Lawless, Folksingers and Folksongs in America, Duell, Sloan and Pearce, 1960 の巻末レコード一覧)。また日本で制作されたフォークダ ンス用の CD でも『たのしいフォークダンス・ベスト 20』(キングレコード 240A 4005) と『学校フォークダンス[小学校]』(日本コロムビア CG-3996) に「バージニア・リール」 がある(日本フォークダンス連盟編『学校フォークダンス指導のてびき』大修館書店, 1990, p.20)。これは学習指導要領の指導書・解説の中で「バージニア・リール」がフォ ークダンスの例示とされていることと関係が深いものと考えられる(文部省『小学校指導 書体育編』東洋館出版社,1989, p. 71;文部省『中学校学習指導要領(平成 10 年 12 月) 解説——保健体育編——』東山書房, 1999, p. 67)。
- 4. Florence E. Brunnings, Folk Song Index: A Comprehensive Guide to the Florence E. Brunnings Collection (Garland, 1981) には収録文献として 2 点が挙げられているが, ここには注 (92) で言及するものは含まれていない。また, そのうち 1 点は注 (82) のフォード楽団版であろう。
- 5. Charles Hamm, Yesterdays: Popular Song in America (Norton, 1979, pp. xvii-xxii) では楽譜・レコードなどの「商品化」された歌が対象であり、必ずしも知名度を基準にしていない。「ポピュラー音楽」以外のジャンル(たとえば、わらべうた・春歌など)とか

- 特定の脈絡で繰り返して流されたり演奏される曲であれば、楽譜やレコードが少ないの によく知られている、ということはある。
- 6. H. Wiley Hitchcock, *Music in the United States: A Historical Introduction* (Prentice-Hall, 1969), p. 35. そもそも楽譜によって伝えられる音楽ではなく、楽譜を読めないフィドラーも多い (Miles Krassen, *Appalachian Fiddle*, Oak, 1973, p. 5)。
- 7. Terry E. Miller, Folk Music in America: A Reference Guide (Garland, 1986) 参 照。なお、研究史の一端については、Judith McCulloh, "Introduction" to Ira W. Ford, Traditional Music of America (1940; rpt. Da Capo, 1978, pp. i-xv); Phillips Barry, "American Folk Music," (Southern Folklore Quarterly, vol. 1, no. 2, 1937, pp. 44-7) 参 照。
- 8. D.K. Wilgus, *Anglo-American Folksong Scholarship Since 1898* (Rutgers University Press, 1959), p. 153.
- 9. Violet Alford and Rodney Gallop, The Traditional Dance (Methuen, 1935), pp. 18-19; Webster's New International Dictionary, 2nd ed. (1943), s.v. Virginia reel. ただし,これらの関連を述べていなかったり,「派生した」(The Century Dictionary, 1911)とか「似た踊り」(Funk & Wagnalls New Standard Dictionary of the English Language, 1965;『研究社新英和大辞典(第 5 版)』)のような表現をするものもある。なお, O.E.D. および William Chappell, Popular Music of the Olden Time, vol. 2 (Cramer, Beale, & Chappell, [1859], pp. 534-45)ではRoger de Coverley を見出しにしている。
- 10. George S. Emmerson, Scotland Through Her Country Dances (Johnson, 1967), p. 105.
- 11. 1650 年以降 18 版にわたって出版された John Playford, The (English) Dancing Master のことで, Kate Van Winkle Keller and Genevieve Shimer, The Playford Ball: 103 Early English Country Dances (A Cappella Books, 1990); Cecil Sharp, The Country Dance Book, Part II (Containing Thirty Country Dances from the English Dancing Master (1650-1686)), 2nd ed. (Novello, 1913); Douglas and Helen Kennedy, eds., Country Dance Book (The Airs and Descriptions of Thirty Country Dances from "The Dancing Master," 17th Edition: Vol. I (1721) and Vol. III (1728)) (The English Folk Dance Society, n.d. [first published 1929]) 参照。ただし、これらの版にはダンス曲の "Sir Roger de Coverley" そのものは含まれていない。
- 12. The New Grove Dictionary of Music and Musicians (Macmillan, 1980), s.v. contredanse; Jan Ling, A History of European Folk Music (University of Rochester Press, 1997), pp. 191-92. なお, 英語の country dance がなまって (正確に言うと, contre-"counter-"との民間語源によって) フランス語の contredanse となり, 英語にこの語形または contradance (短縮して contra) として再導入され, これは country dance 一般ではなく広義の longways を指す (Eloise Hubbard Linscott, ed., Folk Songs of Old New England, Macmillan, 1939, p. 63; Webster's Third New International Dictionary, 1961, 1967, s.v. contredanse)。
- 13. 邦正美『舞踊の文化史』(岩波新書, 1968), p. 41.
- 14. 『大英和辞典』(冨山房, 1931), s.v. Roger-de-Coverley, Virginia reel. また, 荒川惣

兵衛『角川外来語辞典』(角川書店、1967, s.v. バージニアリール) でも「いなか踊り」。

- 15. 『音楽大事典』(平凡社, 1982, s.v. リール) における Sir Roger de Coverley の説明。 Cf. "This type of folkdance [i.e. country dance] is not peculiar to any particular country or region" (*The New Grove Dictionary of Music and Musicians*, vol. 6, p. 188).
- 16. 主として Chappell, Popular Music of the Olden Time (p. 535) の説明による。
- 17. Mrs Lilly Grove, Dancing (Longmans, Green, and Co., 1895), frontispiece.
- 18. Sharp, The Country Dance Book, Part II, pp. 104-5.
- 19. Chappell, *Popular Music of the Olden Time* (p. 534). ただし、そこで示された楽譜 (p. 535) は原譜よりも 1 オクターヴ高く記譜されている (p. 789n.b)。Grove, *Dancing* (p. 395) にも掲載され、実質的にはほぼ同じ旋律であるが、拍子記号はなぜか 3/9 (9/4 の誤りであろう) であって"1695"年版からの引用とされている。
- Anya Peterson Royce, The Anthropology of Dance (Indiana University Press, 1977), p. 123; Grove, Dancing, p. 394; Priscilla and Robert Lobley, Your Book of English Country Dancing (Faber and Faber, 1980), p. 14.
- 21. Frank Howes, Folk Music of Britain—And Beyond (Methuen, 1969), p. 204.
- 22. 1845 年頃フィラデルフィアで出版された Queen Victoria's Dances という楽譜集に含まれている版も同種であろう(収録曲目を示す表紙の写真が Harry Dichter & Elliott Shapiro, Handbook of Early American Sheet Music 1768-1889, 1941; rpt. Dover, 1977, facing p. 78 および The New Grove Dictionary of American Music, vol. 1, Macmillan, 1986, p. 567 にある)。ただし、Gordon Langford がブラス・バンドに編曲した "Sir Roger de Coverley"(John Foster Black Dyke Mills Band, The Great British Tradition, Chados CHAN 4524, 1984 [CD] 所収)は、"Traditional" と表示されているが、プレイフォード版とは違う曲である。
- 23. Chappell, vol. 2, p. 534. なお, 替え歌で春歌になったトマス・ダーフィー版 ("She Met with a Country-man") もあり、その全歌詞については、John S. Farmer, ed., *Merry Songs and Ballads, Prior to the Year A.D. 1800*, vol. 4 (1895; rpt. Cooper Square, 1964, pp. 258-59) 参照。"Arthur O'Bradley" (または"O Brave Arthur of Bradley") については、Chappell, vol. 2, pp. 539-40 参照。
- 24. Sydney Northcote, The Ballad in Music (Oxford University Press, 1942), p. 23.
- 25. Linscott, Folk Songs of Old New England, p. 115.
- 26. Chappell, vol. 2, pp. 534-5; Emmerson, Scotland Through Her Country Dances, p. 105. なお, 関係は不明であるが, ニュー・イングランドの "Haymaker's Jig" というコントラ・ダンスは, イングランドの "Harvesters' Dance" と似た特徴を持つものであり, 曲は "Turkey in the Straw" がとくに適応する, という (Linscott, pp. 83-4)。ダンスの Hay (または Hey) については, Chappell, vol. 2, p. 629 参照。イングランドの "The Haymakers" (Claude Simpson, The British Broadside Ballad and Its Music, Rutgers University Press, 1966, pp. 292-3), フィドル曲の "The Haymakers" (James Hunter, The Fiddle Music of Scotland, The Hardie Press, 1988, no. 285) とは、少なくとも旋律の点では関係がないと思われる。
- 27. Royce, Anthropology of Dance, p. 112; ジャック・ラーキン/杉野目康子訳『アメリ

- 18 言語文化 Vol. 37
 - カがまだ貧しかったころ』青土社, 2000, pp. 287-93.
- 28. Linscott, pp. 116-17.
- 29. William Wells Newell, Games and Songs of American Children (1883; 2nd ed., 1903; rpt. Dover, 1963), p. 80; Linscott, p. 115.
- 30. Webster's Third, s.v. virginia reel. ここでは, "an American longways" と言っているが, 第 2 版 (1943) とは違って, Sir Roger de Coverley には言及していない。なお, Eileen Southern, The Music of Black Americans: A History, 2nd ed. (Norton, 1983, p. 45) に "A black fiddler plays for colonial dancers doing the Virginia Reel" という説明のついた挿絵 (Howard Helmick, 1894) がある。背景に 5~6 人の女性が並んで立ち, カップルの男女が踊っているという構図は、前述の Grove, Dancing のものによく似ているが、第 3 版 (1997) ではヴァージニア・リールとは認められなかったようでキャプションから"Virginia Reel" の名称を削除している。
- 31. この点についての記述は一致していて, "the last dance" (Royce, Anthropology of Dance, p. 123); "the common wind-up" (Simon J. Bronner, Old-Time Music Makers of New York State, Syracuse University Press, 1987, p. 209); "a concluding dance" (Linscott, p. 115); "being generally the finale" (M. Pencil, White Sulphur, 1839, quoted in A Dictionary of Americanisms, s.v. Virginia reel) であり、この慣習はイングランドのサー・ロジャーでも同じであって(Lobley, Your Book of English Country Dancing, p. 14), そこから引き継がれたもののようである。
- 32. 『学校フォークダンス指導のてびき』,pp. 93-96.
- 33. Newell, Games and Songs of American Children, p. 80.
- 34. Bronner, Old-Time Music Makers, p. 209.
- 35. Lloyd Shaw, Cowboy Dances: A Collection of Western Square Dances (Caxton, 1939), pp. 123-4.
- 36. 念のために、ヒット・レコード一覧である Joel Whitburn's Pop Memories 1890-1954: The History of American Popular Music (Record Research, 1986) を参照したが、"Virginia Reel" は載っていない。また、ポピュラー音楽史の標準的な参考文献である Sigmund Spaeth, A History of Popular Music in America (Random House, 1948) にも Julius Mattfeld, Variety Music Cavalcade: Musical-Historical Review 1620-1961, new and enlarged ed. (Prentice-Hall, 1962); Russell Sanjek, American Popular Music and Its Business, vol. 2 (From 1790 to 1909) (Oxford University Press, 1988); Dichter & Shapiro, Handbook of Early American Sheet Music; Hamm, Yesterdays にもこの曲名はない。
- 37. V.A., Choose Your Partners!: Contra Dance & Square Dance Music of New Hampshire (Smithsonian Folkways SFW CD 40126, 1999) [CD].
- 38. 注(42)の引用文を見よ。
- 39. Emmerson, Scotland Through Her Country Dances, p. 105.
- 40. "Traditional square dances include 'Bird in the Cage,' 'The Virginia Reel' ('Sir Roger de Coverley'), 'Take a Little Peek,' 'Solomon Levi,' and 'Marching Through Georgia'" (*The Encyclopedia of Country Music*, Oxford University Press, 1998, s.v.

Square Dancing).

- 41. Ira W. Ford, Traditional Music of America, pp. 108 and 222.
- 42. "All movements and figures of the Square Dance are very old, older than our nation, stemming from the Quadrilles of France, Italy, and Spain; the English Country and Sword Dances; the Mexican and New Mexican Quadrilles; the circle dances and so-called 'Running Sets' of the Southern Highlands; the Longways or 'Contrys' [i.e. contras] of New England; the English, Irish and Scotch Reels; the dances of Europe, of Latin America, and the play-party and singing games of our early settlers and pioneers." (Lee Owens and Viola Ruth, Advanced Square Dance Figures of the West and Southwest, Pacific Books, 1950, p. 21). これは関係ありそうなダンスをすべて盛り込んだ説明であり、いろいろな起源から由来していることは考えられるが、常識的には"Square dancing evolved in the 19th century from the popular ballroom dances of French origin, particularly the quadrille and the cotillion, and to some extent the country dance as well" (The New Grove Dictionary of American Music, s.v. Square dance) であろう。
- 43. "[T]he square dance, which is derived from the eighteenth- and nineteenth-century quadrilles of European high society" (Bruno Nettl, *Folk and Traditional Music of the Western Continents*, 2nd ed., Prentice-Hall, 1965, pp. 245-6).
- 44. "[I]t is the cotillion that is the direct ancestor of our square dance" (Louie W. Attebery, "The Fiddle Tune: An American Artifact" (1967), reprinted in *Readings in American Folklore*, ed. by Jan Harold Brunvand, Norton, 1979, p. 327).
- 45. "I believe the two main sources [of the Western square dance] to have been the New England Quadrille and the Kentucky Running Set." (Lloyd Shaw, *Cowboy Dances*, p. 26).
- 46. "An American country-dance in which couples perform various steps together to the instruction of a caller" (*The American Heritage Dictionary*, 3rd ed., 1992, s.v. Virginia reel) と、コーラーの存在を定義に含めている辞書もある。コーリングは 1840 年代から普及したアメリカ的な慣行である(*The New Grove Dictionary of American Music*, s.v. Dance, § II, 2)。
- 47. Lloyd Shaw, Cowboy Dances, p. 124.
- 48. World Book Dictionary (1979). なお, 英和辞書では「フォーク・ダンス」と説明するものが多い。もちろん意味次第ではこれを country dance とも言える。
- 49. Bill C. Malone, *Country Music*, U.S.A., 2nd ed. (University of Texas Press, 1985), p. 17.
- Joyce H. Cauthen, With Fiddle and Well-Rosined Bow: Old-Time Fiddling in Alabama (University of Alabama Press, 1989), p. 209.
- 51. Vance Randolph, *Ozark Folksongs*, vol. 3 (State Historical Society of Missouri, 1949), pp. 297-98.
- 52. Richard Chase, ed., Old Songs and Singing Games (1938; rpt. Dover, 1972, pp. 45-46) および Richard Chase, ed., Singing Games and Playparty Games (1949; rpt.

- Dover, 1967, pp. 34-38) に挿絵と詳しい解説があり、フィギュアそのものはヴァージニア・リールと呼んでもよいくらいの類似がある。
- 53. S. Foster Damon, ed., Series of Old American Songs (Brown University Library, 1936), no. 24 ("Jim Along Josey" への解説).
- 54. 『ラフカディオ・ハーン著作集第1巻』(恒文社, 1980), pp. 137, 158.
- 55. Marshall & Jean Stearns, Jazz Dance: The Story of American Vernacular Dance (1968; rpt. Da Capo, 1994), p. 23.
- Charles Lanman, Haw-He-Noo: Or Records of a Tourist (1850), reprinted in Roger
 Abrahams, Singing the Master: The Emergence of African-American Culture in the Plantation South (1992; Penguin, 1993), pp. 227-28.
- 57. Jane M. and Marion Turnbull, American Photographs, II, pp. [60]-72, quoted in Dena J. Epstein, Sinful Tunes and Spirituals: Black Folk Music to the Civil War (University of Illinois Press, 1977), p. 154.
- 58. Mark A. Humphrey, "Holy Blues: The Gospel Tradition," in Lawrence Cohn, ed., *Nothing But the Blues: The Music and the Musicians* (Abbeville Press, 1993), pp. 129-30.
- V.A., West Indies: An Island Carnival [Recorded in the Lesser Antilles by Krister Malm] (Elektra Nonesuch Explore Series 9 72091-2, 1997) [CD].
- 60. Craig Mishler, The Crooked Stovepipe: Athapaskan Fiddle Music and Square Dancing in Northeast Alaska and Northwest Canada (University of Illinois Press, 1993), pp. 53, 119, 180. 付随の曲の楽譜があり (p. 195), 曲名は"A La Bundry"または"De La Bundry"で、起源はフレンチ・カネイディアンのようでもある(p. 180)。
- 61. これとは地域も違うし「ヴァージニア・リール」は含まれていないが,他のネイティヴ・アメリカンのフィドルのダンス曲(V.A., *Plains Chippewa/Metis Music from Tur-tle Mountain*, Smithsonian Folkways CD SF 40411, 1992 [CD])を聞く限りでは,このような印象を受ける。
- 62. Linscott, p. 115.
- 63. J.F. and T.M. Flett, Traditional Dancing in Scotland (RKP, 1964), p. 90. John Doonan (whistle) (V.A., Happy to Meet, Sorry to Part: Classic Irish Dance Music, Globestyle CDORBD 092, 1996 [CD]) はジグ曲として演奏している。これに対してスコットランド版の Jim Johnstone は "Military Two Step" の1曲としている (V.A., Scotland: The Dances and Dance Bands, Lismor LCOM 9003, 1987 [CD])。3 拍子の曲となることもある (V.A., American Banjo Three Finger and Scruggs Style, Smithsonian Folkways CD SF 40037, 1990 [CD] に所収の Pete Kuykendall のバンジョー演奏)。ただし、リールとジグは相いれないものではなく、リールの中にはジグの様式に従って 6/8 拍子で演奏されるものもある (The New Grove Dictionary of American Music, s.v. Reel)。
- 64. James J. Fuld, *The Book of World-Famous Music: Classical, Popular and Folk*, 4th ed. (Dover, 1995), pp. 306, 489; Bronner, *Old-Time Music Makers*, p. 211. 前者 ("Oft have I ...") は独立した曲ではなく、Thomas Ravenscroft, *Pammelia* (1609; rpt. Da

- Capo, 1971) では "Hey downe downe" の後半部 (p. 30) にあたる。後者 ("Dargason") は、第 2 節で言及したダンスの曲で、Chappell, Popular Music of the Olden Time, vol. 1 (pp. 64-5); Claude Simpson, The British Broadside Ballad and Its Music (p. 165) ["Skip to My Lou" とも関係ありとされている]; Keller and Shimer, The Playford Ball (p. 23) 参照、CD では The New York Renaissance Band, Country Capers: Music from John Playford's The English Dancing Master (Arabesque Z6520, 1984) および The Waverley Consort, An American Journey: Bound for the Promised Land (Angel CDC 7243 5 55522 2 8, 1996) にも収録。なお、"The Irish Washerwoman" の B 部分は "Country Courtship" (Chappell, vol. 2, pp. 671-72) から由来するという説もある (Bronner, p. 211)。
- 65. Roger Lax and Frederick Smith, *The Great Song Thesaurus* (Oxford University Press, 1984, s.v. Irish Washerwoman, or, The Scotch Bagpipe Melody) は "1792. m. traditional Irish folk dance" というが、この初出年は明らかにスコットランド版を指しており、"Irish"に限定する根拠は不明。
- 66. バーンズ版は、James Kinsley, ed. The Poems and Songs of Robert Burns, 3 vols. (Clarendon Press, 1968), no. 306 (pp. 532-3, 1337); James Johnson, Scots Musical Museum, vol. 1 (1853; rpt. Folklore Associates, 1962), no. 272 (p. 281); James C. Dick, The Songs of Robert Burns (1903; rpt. Folklore Associates, 1962), no. 287 (pp. 271, 466); George Alexander, ed., Maver's Collection of Genuine Scottish Melodies (Robert Maver, n.d.), pp. 131-32; William Cole, ed., Folk Songs of England, Ireland, Scotland & Wales (Charles Hansen, 1961, 1969), pp. 150-51. 他に Joseph Ritson 版 (Norman Buchan, ed., 101 Scottish Songs, Collins, 1962, p. 126), ョーゼフ・ハイドン の編曲 (Mhaira Lawson/Olga Tverskaya, Haydn: English and Scottish Songs, Opus 111 OPS 10-008, 1998 [CD] に収録)もあり,"Highland Laddie songs"の一つとされ ている (William Donaldson, The Jacobite Song: Political Myth and National Identity, Aberdeen University Press, 1988, p. 78). \$\frac{1}{2}\$ Peter van der Merwe, Origins of the Popular Style: The Antecedents of Twentieth-Century Popular Music (Clarendon Press, 1989, p. 236); Marie McLaughlin (soprano), Songs of Scotland (Hyperion CDA67106, 1999) [CD] 参照。なお,旋律は版によって違いがある。アイリッシュおよび アイリッシュ・アメリカンの歌集である The Library of Irish Music (AMSCO, 1998, p. 235) にも収録されているが,これは起源を示すものではなくアイリッシュ系の間でも好 まれるという意味であろう。
- 67. James Hunter, The Fiddle Music of Scotland (The Hardie Press, 1988), no. 313.
- 68. 詳しくは, Fuld, Book of World-Famous Music, pp. 659-60; Oscar George Theodore Sonneck, Report on "The Star-Spangled Banner," "Hail Columbia," "America," and "Yankee Doodle" (1909; rpt. Dover, 1972), pp. 79-156; Iona and Peter Opie, eds., The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes, 2nd ed. (Oxford University Press, 1997), pp. 528-32 参照。日本では「アルプス一万尺」の旋律として知られている。
- 69. Sidney Howard, Gone with the Wind: The Illustrated Screenplay (Lorrimer Publishing, [?1979]), p. 114. "Dixie" (もとの題名は"Dixie's Land") については, Fuld, Book of World-Famous Music, pp. 196-99; Hans Nathan, Dan Emmett and the Rise

- of Early Negro Minstrelsy (University of Oklahoma Press, 1962, 1977), pp. 243-75; Richard Jackson, ed., Popular Songs of Nineteenth-Century America (Dover, 1976), pp. 61-4, 268 参照。
- 70. Sidney Howard, Gone with the Wind: The Screenplay (Delta, 1989), p. 66.
- 71. Gone with the Wind: Original Motion Picture Soundtrack (Turner/Rhino R2 72269, 1996) [CD]. "Garry Owen" ["Garryowen" とも] はカスター将軍の第7騎兵隊が採用してから知られるようになったとも言われる曲で、これについては、Irish Tunes for Piano (Ossian, 1991), p. 80; The Library of Irish Music, p. 204; Lewis Winstock, Songs & Music of the Redcoats 1642-1902 (Leo Cooper, 1970), pp. 103-4; Frederick Fennell/Eastman Wind Ensemble, The Civil War: Its Music and Its Sounds (Mercury 432 591-2, 1999) [CD]; William H.A. Williams, 'Twas Only an Irishman's Dream: The Image of Ireland and the Irish in American Popular Song Lyrics, 1800-1920 (University of Illinois Press, 1996), p. 21 参照。
- 72. A Dictionary of American English (University of Chicago Press, 1938-44); A Dictionary of Americanisms (University of Chicago Press, 1956).
- 73. Iona & Peter Opie, The Singing Game (Oxford University Press, 1985), pp. 317-19.
- 74. 注(53) 参照。
- 75. たとえば、Doc Watson & Clarence Ashley, The Original Folkways Recordings: 1960-1962 (Smithsonian Folkways CD SF 40029/30, 1994); Bill Monroe & His Blue Grass Boys, Bluegrass 1959-1969 (Bear Family BCD 15529); The Sauceman Brothers on WCYB Bristle (Copper Creek CCCD-0124, 1994); Fiddlin' Red Herron (V.A., The World's Greatest Country Fiddlers, CMH CD-5904) [以上CD] など。また、映画『脱出 (Deliverance)』 (1972) で挿入曲の一つとして使用された ("Duelling Banjos" from the Original Soundtrack DELIVERANCE, as performed by Eric Weissberg & Steve Mandell, Warner Bros. 2683-2 [CD])。
- 76. "Preface" to Virginia Reels: Transcribed for Guitar by Joseph Weidlich (Centerstream, 1999), p. 4.
- 77. George P. Knauff, Virginia Reels (1839) の原書は参照できなかったが、曲はすべて注 (76) の Virginia Reels [付属 CD あり] に再録されている。
- 78. "Money Musk"という名のダンスもあり、ニュー・イングランドとニューヨーク州では最も人気のあるカントリー・ダンスの一つであった。曲は、1776年にスコットランドの Daniel Dow が伝承曲を手本にして作った "Sir Archibald Grant of Moniemuske's Reel"なる作品から由来する、とも言われている(Bronner, Old-Time Music Makers、pp. 209-10)。ダンスの説明は Linscott(pp. 97-98)参照。イギリス諸島とニュー・イングランドでは今でも演奏されるが、南アパラチアでは「ごくまれ」な曲である(Krassen、Appalachian Fiddle, p. 71)。
- 79. 未見ではあるが, Christopher J. Goertzen の研究 ("Billy in the Low Ground': History of an American Instrumental Folk Tune," Ph.D. diss. University of Illinois at Urbana-Champaign, 1983) によると、この曲の先祖は18世紀のアイルランドとスコットランドにあって、イギリス諸島のフィドラーたちを経由してアメリカに持ち込まれた

- (James Porter, The Traditional Music of Britain and Ireland: A Research and Information Guide, Garland, 1989, p. 171).
- 80. この "Buffalo Gals" の旋律はドイツ系という説があり、Cool White (本名 John Hodges) が 1840 年代に「書いた」とされるミンストレル・ソングの "Lubly Fan" としても知られる (Bronner, p. 216; Spaeth, *History of Popular Music in America*, pp. 100-101; Damon, *Series of Old American Songs*, no. 39; Randolph, *Ozark Folksongs*, vol. 3, pp. 332-34; Eugenia Garson, ed., *The Laura Ingalls Wilder Songbook*, Harper & Row, 1968, pp. 58-59)。
- 81. "Natchez under the Hill" としてのほうが一般的な題名で,"Turkey in the Straw" (「オクラホマ・ミキサー」の旋律) およびその前身の "(Old) Zip Coon" と関連がある とされており、これらの原曲の"Rose Tree"の旋律は、トマス・ムーアの『アイリッシ ュ・メロディーズ』(1808-34) の "I'd Mourne the Hopes That Leave Me" (Francis Robinson, ed., A Selection of Irish Melodies, with Symphonies and Arrangements by Sir John Stevenson, Mus. Doc., and Characteristic Words by Thomas Moore, Esq., vol. 2, Dublin: Robinson and Russell, n.d. [18??], pp. 81-86), およびベートーヴェンの『12 曲のアイルランド歌謡集』の中の"He Promised Me at Parting" (1812-13, Lyrics: William Smyth; Air: Killeavy) (Felicity Lott (soprano) & John Mark Ainsley (tenor) & Ludwig van Beethoven: Volkslied-Bearbeitungen (Complete Beethoven Edition, vol. 17), Deutsche Grammophon 453 786-2, 1997 [CD] 12, Elaine Woods (soprano) & Josef Protschka (tenor) & Ludwig van Beethoven: Songs from the British Isles, Sony SK 64 301, 1995 [CD] に収録), 最近では Steeleye Span, "False Knight on the Road" (Please to See the King, Shanachie 79075, 1990 [CD]; Live at Last!, BGOCD342, 1997 [CD]) にも使用されている。これらの曲の詳しい系譜について t Paul F. Wells and Anne Dhu McLucas, "Musical Theater as a Link between Folk and Popular Traditions," in Vistas of American Music: Essays and Compositions in Honor of William K. Kearns, ed. by Susan L. Porter and John Graziano (Harmonie Park Press, 1999, pp. 99-123) を参照。"Old Zip Coon"のほうも "as an accompaniment to Virginia reels, jigs, and square dances"として広まった (Ruth and Norman Lloyd, eds., The American Heritage Songbook, American Heritage, 1969, p. 80) と言わ れている。
- 82. Henry Ford's Old Time Dance Orchestra (Calls by Benjamin Lovett), "Virginia Reel (Virginia Reel~Miss McLeod~Tom Brown's Body)" (Victor 35771-A) [SP]. なお、このヘンリー・フォードとは自動車王のことであり、オールド・タイム・ダンス音楽の復興にも尽力した。フォード自身はフィドルをたしなんだようであるがあまり上手ではなく (Richard Blaustein, "The Oldtime Fiddlers Association Movement: A Grassroots Folk Festival," Southern Folklore, vol. 51, no. 3, 1994, p. 203), 「Old King Cole のように、お抱え楽士たちを雇って」(Keith Sward, The Legend of Henry Ford, Rinehart, 1948, p. 259), 名前はオーケストラであっても実際は小さなストリング・バンドを自ら組織し、そのパトロンとなった。この中でコールを担当しているベンジャミン・ラヴェットはフォードがマサチューセッツ州からディアボーンに呼び寄せたダンス教師である (Sward, p. 259; Reynold M. Wik, Henry Ford and Grass-roots America,

University of Michigan Press, 1972, 1973, p. 223).

- 83. Bronner, pp. 132, 224; Williams, 'Twas Only an Irishman's Dream, pp. 73-4; The Library of Irish Music, p. 194.
- 84. 『学校フォークダンス指導のてびき』(p.93) に楽譜がある。
- 85. V.A., Choose Your Partners! [CD] に収録。ダンスの Portland Fancy については Linscott (pp. 108-109) に記述があるが、そこでの付属曲は "Larry O'Gaff" ではなくダンスと同名の"Portland Fancy" なる別の曲である。
- 86. John A. McDermott, "Virginia Reel Medley (Miss McLeod's Reel~Tramp, Tramp, Tramp, the Boys Are Marching~Virginia Reel~The Girl I Left Behind Me)" (Brunswick 20050) [SP]. マクダーモットについては Bronner (pp. 19-29) に詳しく書かれており、このメドレー曲 (1926 年録音) はすべて採譜 (主旋律のみ) がしてある。しかし、レコード番号は同じであるが、なぜか収録曲名は "Miss McLeod's Reel~Jesus Loves the Children~McDermott's Shuffle~The Girl I Left Behind Me" と記載されて、この佐々木氏所蔵盤のレーベル(送っていただいた写真で確認した)と相違している。また著者は "McDermott's Shuffle" が "Fairy Reel" であることを述べていない。
- 87. Breandán Breathnach Folk Music & Dances of Ireland (Talbot, 1971), p. 63; Gearóid Ó hAllmhuráin, A Pocket History of Irish Traditional Music (O'Brien, 1998), p. 58. 楽譜は Hunter, The Fiddle Music of Scotland (no. 219 ["Largo's Fairy Dance"]); The Library of Irish Music (p. 221); Ford, Traditional Music of America (p. 71) にある。
- 88. Harold Veo, "Medley of Irish Reels, No. 6" (『アメリカン・ミュージックの原点』, オーディブック AB71, 1994); Ian Holmes, "Eightsome Reel" (V.A., *Scotland: The Dances and Dance Bands*, Lismore 9003); Natalie MacMaster, "Space Ceilidh" (*In My Hands*, Rounder 11661-7025-2, 1999) [以上CD]; Joseph Samuels, "Miss McCloud's Reel Medley" (Okeh 4722) [SP].
- 89. "Tramp, Tramp, Tramp" および "The Girl I Left Behind Me" については, Fuld, Book of World-Famous Music, pp. 588, 242-44 参照。
- 90. National Barn Dance Orchestra, "The Virginia Reel" (Bluebird 5213) [SP].
- 91. Nathan, Dan Emmett and the Rise of Early Negro Minstrelsy, p. 179, n. 17. オリジナルのシート・ミュージック (別々の版) の復刻が Damon, Series of Old American Songs (no. 37) および Richard Jackson, Popular Songs of Nineteenth-Century America (pp. 160-62) に収録。伝承版では Randolph, Ozark Folksongs, vol. 3, pp. 301-4. 著名な曲であるにもかかわらず、手元にあるミンストレル音楽集の CD (3 枚) にはなく、案外と録音が少ない (Golden Gate Quartet with Josh White 版が Deep River of Song: Virginia and the Piedmont, Rounder 11661-1827-2 [CD] にある)。
- 92. Ford, Traditional Music of America, pp. 108, 48.
- 93. Ó hAllmhuráin, A Pocket History of Irish Traditional Music, pp. 51-2; Tomás Ó Canainn, Traditional Music of Ireland (RKP, 1978), p. 104; Breathnach, Folk Music & Dances of Ireland, p. 61; Hunter, The Fiddle Music of Scotland, no. 200 参照。なお、独立戦争から米英戦争にかけて、"The Breeches On"が"Leather Britches"にな

- った, ともいう (Louie W. Attebery, "The Fiddle Tune: An American Artifact," p. 326)。いずれにせよ, イギリス系の曲である (Malone, *Country Music, U.S.A.*, p. 18)。
- 94. Mike Seeger (Vanguard KICP 3009); The New Lost City Ramblers & Friends, Old Time Music (Vanguard 77011-2, 1994); Eck Robertson with the New Lost City Ramblers (V.A., Close to Home, Smithsonian Folkways SF CD 40097); Smiley Hobbs (V.A., Mountain Music Bluegrass Style, Smithsonian Folkways CD SF 40038); Fiddlin' Arthur Smith (V.A., Bluegrass Breakdown, Vanguard VCD 77006); Lester Flatt & Earl Scruggs 1959-1963 (Bear Family BCD 15559 EI, 1992); Leake County Revelers (V.A., The Cornshucker's Frolic: Downhome Music and Entertainment from the American Countryside, vol. 2, Yazoo 2046, 1999) [以上CD]; Tommy Dandurand (Silvertone 25059) [SP] など。
- 95. 本来は"Miss McLeod's Reel"であるが、綴り換えの"Miss McCloud's Reel"と書かれることもある。
- 96. Country Hamm, I'll Be Leaving (Vecto CD-530, [? 1992]) [CD] の "Miss McLeod's Reel" へのノーツに, "Known variously in the U.S. as 'Do You Want To Get To Heaven Uncle Joe', 'Uncle Joe', 'Hop High Ladies', 'The Virginia Reel', and 'The Enterprise And Boxer' among other titles." とある。この他にも "Did You Ever See the Devil, Uncle Joe," "Do You Want to Go to Heaven, Uncle Joe," "Hop Light Ladies," "Hop Up, My Ladies," "Knickerbocker Reel" (Rustic Revellers の SP 盤 [Decca 5062]) など、さまざまなタイトルで知られている。なお、旋律の相違がかなり大きいこともある (Leonard Roberts, Sang Branch Settlers: Folksongs and Tales of a Kentucky Mountain Family, University of Texas Press, 1974, pp. 186-7 に掲載の "Don't You Want to Go to Heaven, Uncle Joe?")。
- 97. Ford, Traditional Music of America では、旋律はきわめて似ているが、フィドル曲の"McLeod's Reel" (p. 31) と歌の"Uncle Joe" (p. 47) を別扱いにしている。なお、"Hop High Ladies"と"Uncle Joe"を分けることがあるが(Marion Thede, The Fiddle Book, Oak, 1970, pp. 99-100)、これは一般的ではない。
- 98. アイリッシュ系の演奏 [すべて CD] としては、Seamus Connolly (V.A., Masters of the Folk Violin, Arhoolie CD 334, 1993); Neil Nolan (tenor banjo) and Dan Sullivan (V.A., Ballinasloe: Early Recordings of Irish Music in America 1920-1930, Traditional Crossroads CD 4284, 1998); Michael Hanafin (fiddle) (V.A., Milestone at the Garden: Irish Fiddle Masters from the 78RPM Era, Rounder CD 1123, 1996); Patrick J. Touhen (uilleann pipes) (V.A., Wheels of the World: Early Irish-American Music, vol. 1, Yazoo 7008, 1997; V.A., Farewell to Ireland, Proper Box 3 [P1109~12], 1999); The Crickard Brothers, Musiques traditionelles d'Irlande (Buda 82485-2) [ここには他の曲とともに "Scottish reels" との注記あり] がある。またフィドル曲集の Miles Krassen, ed., O'Neill's Music of Ireland (Oak, 1976, p. 134) にも収録。
- 99. Breathnach, Folk Music & Dances of Ireland, p. 84.
- 100. Bronner, Old-Time Music Makers, p. 208; George Emmerson, Scotland Through Her Country Dances, pp. 160-64.
- 101. The Gordon Highlanders (V.A., Folklore of Scotland, Delta 46052, 1999); Ian

- Holmes (V.A., Scotland: The Dances and Dance Bands, Lismor LCOM 9003, 1987); Mary Morrison (vocables) (V.A., World Library of Folk & Primitive Music: Scotland, Rounder CD 1743, 1998) [以上 CD]. また, Hunter, The Fiddle Music of Scotland (no. 249) にも収録。
- 102. Robert Cantwell, Bluegrass Breakdown: The Making of the Old Southern Sound (1984; rpt. Da Capo, 1992), p. 256.
- 103. Hans Nathan, "United States of America," in *A History of Song*, ed. by Denis Stevens (Norton, 1960), pp. 416, 417 (楽譜). なお, この著者も"Miss McLeod's Reel"を"Scotch"と言う。
- 104. Bob Carlin によるバンジョー曲が V.A., *Minstrel Banjo Style* (Rounder CD 0321, 1994) [CD] に収録。
- 105. 『音楽大事典』 (平凡社, 1982, s.v. リール).
- 106. この名称は Brunnings, Folk Song Index; Cohen, Traditional Anglo-American Folk Music にも載っていない。
- 107. Chappell, *Popular Music*, vol. 2, p. 534. チャベルはヴァージニア・リールという名には言及していないが、この名を差し置いて他の名で知られるとは考えにくい。植民地時代のヴァージニアなどのダンス事情については、Royce, *Anthropology of Dance* の中の"American Colonial Dance" (pp. 110-31) という事例研究を参照。
- 108. Newell, Games and Songs of American Children, p. 80.
- 109. Randolph, Ozark Folksongs, vol. 3, p. 297.
- 110. 他に, Carl Sandburg, The American Songbag (Harcourt, Brace & World, 1927), p. 161; Richard Chase, Old Songs and Singing Games, pp. 45-46; Garson, The Laura Ingalls Wilder Songbook, p. 76.
- 111. Alan Lomax, ed., The Penguin Book of American Folk Songs (Penguin Books, 1964), p. 67. ブルーグラスの演奏では Laura Lewis & Her Bluegrass Pals (Rounder 11661-0461-2, 1999) [CD]。"Over the Water to Charlie" については、Opie, The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes (pp. 133-32) 参照。
- 112. Chase, Singing Games and Playparty Games, pp. 32-35; Chase, Old Songs and Singing Games, pp. 43-4; Opie, The Singing Game, pp. 215-16.
- 113. Jean Ritchie, The Best of Jean Ritchie (P-Vine PCD-5224, 1997) [CD]; Ritchie, The Dulcimer Book (Oak, 1974), p. 28; Folk Songs of the Southern Appalachians as Sung by Jean Ritchie (Oak, 1965), p. 25; Lomax, Penguin Book of American Folk Songs, p. 66.
- 114. Chase, Singing Games and Playparty Games, pp. 36-39; Randolph, Ozark Folksongs, vol. 3, pp. 315-16 ["We'll All Go to Boston"]; Edith Fowke, Sally Go Round the Sun: Three Hundred Children's Songs, Rhymes and Games (Doubleday, 1969), no. 32.
- 115. Opie, The Singing Game, pp. 212-13; Alice Bertha Gomme, The Traditional Games of England, Scotland, and Ireland, vol. 1 (1894; rpt. Dover, 1964), pp. 243-45. もちろんすべてがそうとは限らない (Fowke, Sally Go Round the Sun, no. 36)。